

令和7年度

学校評価報告書



沖縄県立島尻特別支援学校

I 令和7年度学校評価の基本方針と実施概要

1 基本方針

- (1) 本校児童生徒、保護者、教職員、学校評議員に対して学校評価アンケートを実施する。
- (2) 自己評価（教職員）、学校評価アンケート（児童生徒・保護者）、学校関係者評価（学校評議員）に基づき、「学校評価報告書」を作成する。
- (3) 「学校評価報告書」について、学校評議員より意見・要望等を聴取する。
- (4) 「学校評価報告書」は本校ホームページ上で保護者に公表する。

2 学校評価アンケートの概要

- (1) 対象 児童生徒、保護者、教職員、学校評議員
- (2) 質問項目等

- ① 児童生徒アンケート 対象者（302名）、回答数（141名）回答率は53.3%
各学部・学年で取り組む時間を設けることで、前年度22%より31.3%増。
今後も多くの児童生徒の声を聴く機会を大切にしていく。
 - ・質問紙回答とインターネット回答（Forms）で実施。
 - ・質問は全12項目で、小学部の児童、中学部・高等部の生徒を中心に実施。
 - ・4段階評価「◎はい ○すこし思う △あまり思わない ×いいえ」及び「?わからない」で実施
- ② 保護者アンケート 対象者（302名）、回答数（185名）、回答率60.9%
 - ・質問紙回答とインターネット回答（Forms）で実施。
マチコミでの再依頼の呼びかけを行い、前年度の回答率40%より20.9%増。
 - ・質問は16項目で、幼小学部、中学部、高等部の保護者を対象に実施。
 - ・4段階評価「◎当てはまる ○ある程度当てはまる △あまり当てはまらない ×当てはまらない」及び「?わからない」で実施。
 - ・依頼文（QRコード付）を配布、マチコミメール送信で再依頼の呼びかけを実施
- ③ 教職員アンケート 対象者（198名）、回答数（150名）、回答率80パーセント
 - ・職員会議、終礼、各学部での周知に徹したが、前年度96.8%より16.8%減。
 - ・質問は24項目（前年度の質問内容を整理し、1項目減、5項目（働き方改革）は県統一）で、管理職、教諭、養護教諭、栄養教諭、寄宿舎指導員、介助員、事務職員、用務員を対象に実施。
 - ・インターネット回答（Forms）で実施。
- ④ 学校評議員 対象者（5名）、回答数（ 名）、回答率は %
 - ・質問は全6項目で実施
 - ・4段階評価「良い」「やや良い」「やや不十分」「不十分」で、第3回学校評議員前に概要資料を送付し、アンケート回答を頂く。評議員会で評議員のアンケート結果を共有。
 - ・依頼文とアンケート結果のまとめを送付し、紙文書とインターネット回答（Forms）で実施。

(3) 日程

時 期	内 容	担当・会議等
8月20日(水) 8月28日(木)	前年度の学校評価における改善事項の確認 昨年度の学校評価確認 ・第1回学校評価委員会 学校評価計画(案)の確認 ・各評価、項目等の確認	職員会議 学校評価委員会
10月16日(木)	・第2回学校評価委員会(評価項目及び集計・分析の確認)	学校評価委員会
11月19日(水)	・職員会議提案(実施時期・内容等の説明)	教頭
12月1日(月)	・第2回学校評議員会 → 趣旨、内容、方法等の説明	教頭
12月1日(月) ～ 12月19日(金)	・評価の実施 自己評価(全教職員) 学校関係者評価(全保護者) 学校関係者評価(児童生徒) 学校関係者評価(学校評議員)	教頭 部主事 生徒指導部 教頭
1月中旬～	・評価の集計 1/5(月)～1/16(金) 自己評価(職員) ⇒ 教頭、寮務主任、事務長 学校関係者評価 ⇒ 部主事 生徒評価 ⇒ 生徒指導部 全体集約 ⇒ 担当教頭	
1月下旬～	・各評価の分析 1/22(月)～1/26(金) 結果提出 1/30(火) ・第2回学校評価委員会 2/5(木) ・本年度学校評価のまとめ ・次年度教育課程の届出	担当教頭 学校評価委員会 教頭 教育課程
2月12日(木) 2月18日(水)	・企画委員会 → 評価概要説明 ・評価結果報告 → 職員会議(各部署との共有)	教頭
教育課程 最終提出	・次年度教育課程の届出・調整	教務主任・教育課程 教頭
2月	2/19(木) 第3回学校評議員 → 結果の概要、考察確認 2/24(火) 第3回学校評議員会 結果分析等説明	学校評価委員会 教頭
3月	・本年度学校評価結果 県立学校教育課へ報告 ・評価の公開(HP=保護者、PTA 評議員、学校評議員)	教頭

II アンケート結果と考察

アンケート結果の考察に向け、学校評議員会をとおして回答65%をAとする基準を見直した。

4段階のうち、上位2段階の合計を「良好な評価」、下位2段階の合計を「要改善評価」とし、80%以上を基準とする。「要改善評価」については、20%に達したものは早急に改善事項を図り、10%台に達しているものについて留意する。

1 児童生徒アンケート

① 回収率53%(小:19.9%、中:78.3%、高:61.9%)

小学部27名、中学部54名、高等部60名、合計141名の児童生徒が回答。

12項目中10項目で良好な評価（「はい」「すこし思う」）が80%以上、うち3項目（No.4、No.5、No.9）は90%以上。全体的に概ね良い評価を得ている。

② 「はい」と答えた割合が最も高かったのはNo.9（120名）の「学校行事」であった。

No	項目	はい	すこし 思う	あまり 思わない	いいえ	わからない	良好な評価 (◎+○)	要改善評価 (△+×)	わからない
4	先生は、私たちのよいところを、ほめてくれる。	115	15	1	1	9	92%	1%	1%
5	先生は、私たちに、あいさつやマナー、ルールについて教えてくれる。	116	14	3	2	6	92%	4%	1%
9	運動会、校内陸上、修学旅行、学習発表会などの学校行事は楽しい。	120	8	3	2	8	91%	4%	1%

③ 12項目中2項目（No.6、No.10について）は良好な評価が80%以下であった。要改善評価（「あまり思わない」「いいえ」）に注目すると、No.6「困ったり悩んだりしたときに、先生に相談している」は9%、No.10「児童会・生徒会活動や係活動に、積極的に参加している」は11%であり、悩みを相談できる体制（個別面談の時間を設ける等）や、児童生徒が日常的に行っている係活動も含めた取り組みも生徒会活動の一環であることの意識づけを行い、学校生活における児童会・生徒会活動への参加の実感を高める工夫を行っていく。

No	項目	はい	すこし 思う	あまり 思わない	いいえ	わからない	良好な評価 (◎+○)	要改善評価 (△+×)	わからない
6	私は、困ったり悩んだりしたときに、先生に相談している。	92	17	9	3	20	77%	9%	2%
10	私は、児童会・生徒会活動や係活動に、積極的に参加している。（生徒総会、新入生歓迎会、卒業生を送る会、当番など）	90	19	8	7	17	77%	11%	5%

④ 少数ながら全ての項目で「いいえ」と答えた児童生徒がいる。今後、学級担任を中心に全職員が生徒の声に耳を傾け、生徒理解に努めていく。

2 保護者アンケート

① 回答率 60.8%（幼小学部 68.4%、中学部 58.0%、高等部 53.6%）

幼小学部 93名、中学部 40名、高等部 52名、合計 185名の保護者が回答。

② 16項目中14項目で「良好な評価」（当てはまる、ある程度当てはまる）が90%以上を超えており、全体的に概ね良い評価を得ている。特にNo.5「基本的な生活習慣」とNo.8の「健康保持・安全教育」では97%の良好な評価を得ることができた。次いでNo.2「個別の教育支援計画等の共有」、No.10「学校行事」、No.15「学校の雰囲気」が96%の良好な評価であった。保護者の信頼を得ながら、次年度にむけてもさらなる教育活動の充実を目指していく。

No	項目	当てはまる	ある程度 当てはまる	あまり 当てはまらない	当てはま らない	わからない	良好な評価 (◎+○)	要改善評価 (△+×)	わからない
----	----	-------	---------------	----------------	-------------	-------	----------------	----------------	-------

2	職員は、個別の教育支援計画等を作成し、保護者と共有している。	135	43	2	1	4	96%	2%	2%
5	職員は、基本的な生活習慣を身につけるために、あいさつやルールやマナーについて指導している。	130	50	1	1	3	97%	1%	2%
8	学校は、子どもたちの健康の保持増進を図り、安全教育を行っている。	134	45	1	0	5	97%	1%	3%
10	学校行事等は、子どもの発達に応じて取り組まれている。	129	48	6	2	0	96%	4%	0%

- ③ 2項目（No.14「PTAの連携」、No.16「働き方改革」）については、77%、69%と80%を下回った。No.14「PTA連携」については、周知の工夫、取り組み内容について評議員と情報交換しながら工夫していく。No.16「働き方改革」については、「わからない」が28%を占めていることから、どのような内容が働き方改革なのか充分伝わっていないことや、具体的な設問（勤務時間の周知、欠席連絡のオンライン化等）をする ことでイメージが持てたことも考えられる。本校が取り組みを進めている内容についてわかりやすく周知を行うことで改善に努める。

No	項目	当てはまる	ある程度当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	わからない	良好な評価 (◎+○)	要改善評価 (△+×)	わからない
14	PTA活動は、保護者と教職員が協力して行っている。	99	44	6	2	34	77%	4%	18%
16	学校は、子どもと向き合うために働き方改革に取り組んでいる。	94	34	5	0	52	69%	3%	28%

- ④ 10項目で1～2名の保護者が「当てはまらない」を選択しており、保護者からの貴重な意見として受け止め、学校の取組の発信に努めていく。

3 教職員アンケート

- ① 回答率80%。対象職員198名中158名、80%が回答。（幼小小学部82%、中学部98%、高等部75%、事務現業61%）

幼小小学部56名、中学部40名、高等部40名、事務現業22名、計158名が回答。

- ② 項目20～24は、働き方改革に関する全県統一の5項目である。

No	評価の観点	項目	当てはまる	ある程度当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	分からない	良好な評価 (①+②)	要改善評価 (③+④)
20	人間関係の構築	同僚・管理者との良好な人間関係が構築できている。	91	62	4	1	0	97%	3%
21	ゆとりある時間の確保	個人の裁量(ゆとり)ある時間の確保ができています。	34	77	32	15	0	70%	30%

22	子どもたちとの信頼関係	一人一人の児童生徒との信頼関係を深めることができている。	74	82	2	0	0	99%	1%
23	専門性の向上・発揮	より専門性を発揮するため研修や教材研究が充実している。	58	87	12	1	0	92%	8%
24	心身の健康・職場環境	心身の健康の確保と安全・快適な職場環境の形成ができている。	45	89	20	4	0	85%	15%

- ③ 24項目のうち、23項目が80%以上の良好な評価を得ている。最も高かったのが、No.11、「図書室運営」、No.14、「事務室運営」で良好な評価100%であった。次いで7項目（No.1「学校の教育目標」、No.7「教育相談」、No.10「保健室運営」、No.12「給食室運営」、No.13「寄宿舎運営」、No.15「現業部との連携」、No.22「子どもたちとの信頼関係」）で、99%の良好な評価を得ている。特に、No.22「子どもたちとの信頼関係」で99%の回答者が一人ひとりの児童生徒と信頼関係を深めることができているという認識であることは、今後も継続または以上を目指していきたい。

No	評価の観点	評価項目	当てはまる	ある程度当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	分からない	良好な評価 (①+②)	要改善評価 (③+④)
1	学校の教育目標	学校の教育目標に即した教育課程が編成されている。	78	78	2	0	0	99%	1%
7	教育相談等	校内外の教育相談体制は整っている。	92	64	2	0	0	99%	1%
10	保健室運営	保健室は各学部、部署等との連携を図りながら適切に運営されている。	126	31	1	0	0	99%	1%
11	図書室経営	図書室は各学部、部署等との連携を図りながら適切に運営されている。	125	33	0	0	0	100%	0%
12	給食室運営	給食室は各学部、部署等との連携を図りながら適切に運営されている。	123	34	1	0	0	99%	1%
13	寄宿舎運営	寄宿舎は各学部、部署等との連携を図りながら適切に運営されている。	119	38	1	0	0	99%	1%
14	事務室運営	事務室は各学部、部署等との連携を図りながら適切に運営されている。	132	26	0	0	0	100%	0%
15	現業部との連携	現業部(バス部、介助員、用務員)と各学部、部署等との連携は図られている。	115	42	1	0	0	99%	1%
22	子どもたちとの信頼関係	一人一人の児童生徒との信頼関係を深めることができている。	74	82	2	0	0	99%	1%

- ④ 良好な評価が70%、要改善評価30%となったのが、No.21「ゆとりある時間の確保」であった。時間の確保については、各学部より意見が寄せられており、教育課程の編成や校務分掌のスリム化による担任力向上を目指して時間の確保に努めていく。ただし、個人の裁量ある時

間の確保は、児童生徒下校後の時間帯や、時間割編成に伴う時数とのバランスによるものであることも再度、共通認識を図っていく。

No	評価の観点	項目	当てはまる	ある程度当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	分からない	良好な評価 (①+②)	要改善評価 (③+④)
21	ゆとりある時間の確保	個人の裁量(ゆとり)ある時間の確保ができています。	34	77	32	15	0	70%	30%

- ⑤ 要改善評価で10%を超えるものは、No.17「(労働環境) 19%、No.19「施設・設備」15%、No.21「ゆとりある時間の確保」30%であった。知肢併設校として知的障害教育・肢体不自由教育の双方を担うことで、授業準備や教室移動、児童生徒に対する安全管理も含めた、身体的・心理的な負荷がかかっていると分析する。また、施設の老朽化に伴うクーラー不調などもあり、学習グループや教室配置の見直しにおいても、影響は大きかった。次年度計画されている、空調等の大規模修繕で解消を図る予定である。

No	評価の観点	項目	当てはまる	ある程度当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	分からない	良好な評価 (①+②)	要改善評価 (③+④)
17	労働環境	休憩時間や年休等は適切にとれている。	54	74	26	4	0	81%	19%
19	施設・設備	教育活動に必要な施設・設備等は適切に活用されている。	47	87	17	7	0	85%	15%
21	ゆとりある時間の確保	個人の裁量(ゆとり)ある時間の確保ができています。	34	77	32	15	0	70%	30%

III まとめ

令和7年度の学校評価をとおして、良好な評価として児童生徒・保護者に共通して見られたのは、「生徒指導」(ルールやマナー等の基本的な生活習慣)に関する項目と「学校行事」であった。学校生活において児童生徒は「先生からほめられている」実感があり、教職員においても「子どもたちとの信頼関係」が良好な評価99%として、高く認識されていることがわかった。児童生徒と教職員、双方における信頼関係を今後も維持し、安心安全な学校運営に努めていく。

一方、良好な評価で80%に満たない児童生徒の項目は「困ったり悩んだりした時に相談している」(77%)と教職員の「ゆとりある時間の確保」が要改善評価30%であったことは双方関連していると考察する。子どもと向き合う時間のみならず、授業をとおして向き合う授業力、個に応じた指導力等を高めるための教職員の資質向上の意識を高めながら、教職員の「ゆとり」の実感につなげていきたい。

また、今年度は教職員の項目に「労働環境」を新設したことで、要改善評価が19%を占めたことがわかった。要因として、知肢併設校ならではの課題(児童生徒数増加に伴う教室確保、時間割の交錯、多様な障害種に応じた健康・安全管理等)が挙げられると考察している。保護者からも「施設・設備」に関する個別意見が複数寄せられており、これらの評価を踏まえて、県教育委員会への働きかけや連携を図りながら喫緊の課題として改善に努めていく。

魅力ある学校運営の推進に向け、児童生徒・保護者・教職員・学校評議員から多くの評価を受け、本校の良好な評価と課題について整理することができた。心より御礼申し上げます。

